

## かだマニフェストと基本構想について

2006年7月にかだマニフェストを掲げ嘉田知事は誕生いたしました。かだマニフェストには、「税金のムダ使いもったいない」「子どもや若者が自ら育つ力」「琵琶湖の自然、こわしたらもったいない」という三つのもったいないを目標として、三つの緊急提言、かだマニフェストの重要案件であります新幹線新駅計画の凍結、県内6ダムの凍結見直し、廃棄物行政についてなど、そして、40の政策提案について嘉田知事は、それらを背負って4年間実現に向けて努力されていることに対して大いに評価をしております。しかし、かだマニフェストを作成された時期と知事就任後に得られた情報格差や、研究者であった時代には見えなかった行政の仕組みや国との関係など、また、リーマンショックなどの予想もしなかった社会情勢の変化もあり、マニフェストに目標を掲げられたとしても、実現は相当厳しいと感じながらも実現に向けて努力されました。そこで、4年間を振り返って、かだマニフェストに対する知事の総合的な自己評価をお聞きします。

2点目に、かだマニフェストを基本に、滋賀県の県政運営の最上位計画である「滋賀県基本構想」が2007年12月に策定されました。この「滋賀県基本構想」は、単に県政運営の基本方針とするだけでなく、県民や各種団体企業などが、それぞれの役割に応じて積極的・主体的に取り組みを進めて頂くうえでの共通の指針とされてきました。施策の展開にあたっては、成果を示す指標を設定し、目標管理型の行政運営を推進してこられました。この基本構想には、嘉田マニフェストも反映されておられ、今年度末で計画期限を迎えることから、いよいよ次期基本構想の議論が始まると思いますが、これまでの「滋賀県基本構想」の評価についてどのようにお考えか、知事にお伺いします。

3点目に、2010年の新たな挑戦における、かだマニフェストについて、知事は県民参加型の新しいマニフェストが、県民の皆さんと県政をつなぐ架け橋となり、幅広い共感をいただきながら、ともに「未来可能な安心希望社会づくり」を実現していきたいと言われました。いよいよ立候補するにあたって、現職の知事として、実現しなければならない県民との約束として、責任を持って提起しなければなりません。2006年のかだマニフェストの時よりも、さらに今回は財政が厳しい状況です。そのようなことも踏まえて、知事の最重要事項および決意をお聞かせください。

4点目に、「滋賀県基本構想」では、右肩上がりの経済成長から成熟社会へと述べておられますが、これからは、県民の生活が実感できる安心社会へと目指さなければなりません。そのような中で、県民が安心して生活ができるためには、住民に一番近い市町との役割分担や市町に対するさらに強い連携が求められており、それに対する施策や予算に対しては十分に配慮しなければなりません。新たな基本構想づくりに向けて市町と十分連携していかなければならないと考えますが、この点について、知事のご所見をお伺いします。

最後に、先日我が会派は、県民の要望の多い外郭団体および公の施設のあり方について検討するため、びわ湖ホール・県立近代美術館・県立栗東体育館を視察に行きました。今回、レイカディア大学が運営方法を見直され、維持運営が可能になったことは関係者の努力が大変大きく敬意を表するものです。また、県立近代美術館とびわ湖ホールが、7月から8月にかけて初の連携事業をされると報道されていますが、県の施設同士であってもそれぞれが、県民に楽しんで頂ける運営改善に向けて歩みだしたことに大いに期待したいと思います。2006 かのマニフェストでは、政策提案 1-1「県事業、県出資法人等の事業を徹底して見直し、新たな財源を作ります。」と提案をされておられます。これらの運営改善に向けた動きも 2006 かのマニフェストが一つのきっかけだと評価をしますが、多くの県民のみなさんが利用され、県民の思いを尊重し、そして運営する側も運営改善に向け努力を傾注しておられます。知事は、外郭団体および公の施設の見直しに関しては、どのように進めていこうと考えておられるか、知事にお伺いします。